

拝啓、毎回全く同じ文面だった冒頭文を少し簡略化しました。

私播磨屋助次郎は、地元警察が「天皇陛下のご命令です」と明言して、健康状態を毎月欠かさずチェックしに来てくれる、そんな特別な人間なのです。

その積もりでお読み頂ければ幸いです。

今回は「播磨屋本店大会の思い出」という話です。

それは、平成七年（一九九五年）秋、札幌・仙台・東京・名古屋・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・広島・福岡の全国十一都市で次々に開催した私の講演会です。

それぞれ、千人以上収容出来る大ホールを借りきっての開催でした。

対象は当時のVIP顧客で、総数一万五千人ほどがご参加くださいました。

写真がたくさん残っていますので、いろいろと鮮明に思い出せるのですが、講演テーマは『自然を尊ぶ心、思い出そう』でした。

私はその前々年平成五年九月に、時の徳仁皇太子から赤坂御所に招待され、論文『環境問題抜本解決への提言』を皇太子本人に手渡し献上していました。

そんな私を強力に後押ししてもらいべく、心あるお客様各位に、皇太子への嘆願書をお出し頂くというのが、その大会の真の開催目的だったのです。

結果は、私の想像をはるかに超えるものでした。

記名でお願いしたにもかかわらず、六千余通が宮内庁へ届けられたのです。

冒頭の警察云々の件もですが「私は徳仁天皇の実質的最側近です」などと公言できるのは、この六千余名のお客様方の勇氣ある行動あったればこそなのです。

私は、何が何でもやり遂げねばならないのです。応援して頂ければ幸いです。

令和八年 救世手紙十

代表取締役 覚者播磨屋助次郎 敬白